

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年1月26日

Nature: 中国のコロナがどうなるかは五里霧中

## 【松崎雑感】

中国中央政府の、ある意味乱暴なゼロコロナ政策放棄後、感染者の爆発的増加が起きたと言います。ダムが決壊したような状況なのでしょう。もともとゼロコロナ政策は、パンデミック初期の肺炎激発死亡者続々の大変な状況に対応して実施された合理性がありました。しかしその後、ウイルスの病原性が急速に低下して、「いい加減な」感染防止対策の国々でも、破滅的な結果がもたらされることはなくなったようですが、一人中国は、「真面目に」ゼロコロナを進めるのが最上の対策と考えて進んできました。結果論ですが、国民の小部分が少しずつ感染する政策の方が、医療施設のひっ迫をもたらさず、ウイズコロナに円滑に移行できたのでしょう。今の日本では、交通事故死を一桁以上上回るコロナ死亡が出ていますが、多くの人々はそれが異常事態ととらえていないという状況があります。中国を非難するだけではダメだと思います。疫学に携わる専門家の皆様のご意見を頂きたいと思います。

## 中国のコロナがどうなるかは五里霧中

Normile D. **China is flying blind as the pandemic rages.** *Science*. 2023;379(6627):11-12. doi:10.1126/science.adg5286

公式発表の死亡数が少なすぎる。新たな変異株のサーベイランスが不十分

多くの専門家は、中国のゼロコロナ政策終了が遅きに失したと考えている。しかし、今また新たな懸念が増している。ウイズコロナ政策を進めるために必要な正確なデータを掴んでいるのか？

中国は1か月前に、激しい抗議、経済減速、オミクロン株の極めて高い感染力を受けて、ゼロコロナ政策を放棄した。現在「新型コロナウイルスは、強固な集団免疫の成立していない中国国内に好き放題に広がるチャンスを得た」と、シドニー大学進化生物学者エドワード・ホルムズ氏は語った。

しかも、中国当局が感染状況のサーベイランスをやめてしまったので、今後国内パンデミックがどのような方向に向かうか全く予想がつかない。

中国がゼロコロナ政策を終わらせた場合どうなるかは、感染モデルによって既に正確に予測されていた。患者が病院の廊下まであふれ、火葬場に遺体が滞留し、ヘルスケアワーカー葉過労の極致にある。

しかし、当局の発表する死亡数は、あきれるほど少ない。重大なことは、世界人口の5分の1を占める中国国内の新型コロナサーベイランスデータがまったく少ないことである。

パンデミック当初は、中国の感染者数と死亡数は、徹底的な検査のおかげで、ほぼ正確だったはずである。

しかし現在、誰も正確な数字を知ることはできなくなった。無症状者だけでなく軽症の患者にも検査をしないようになった。自己検査で陽性となっても当局に報告する義務はなくなった。

中国CDCは、2022年12月最終週の感染者数を3万5千人と発表した。これはアメリカと比べると極めて少ない。しかし、流出した内部資料によると、12月の最初の3週間で、中国の人口の18%にあたる2億5千万人が新型コロナに感染したという。

この数字がありえないほど大きすぎるという専門家もいるが、アメリカのシンクタンクCouncil on Foreign Relationsのグローバルヘルス専門家ヤンゾン・ファン氏は、北京市民の8割がこれまでに感染したという信頼できるデータがあることを考えたなら、あり得ない話ではないと述べている。

新型コロナ死亡数についても、矛盾した数字が発表されている。多くの地域では、新型コロナ感染後に死亡した人々の数字を報告しているが、新型コロナの併発症や基礎疾患の悪化によって死亡した人々は新型コロナ死亡者から除外する地域もあった。

中国当局は、12月はじめに、コロナ死亡の定義を狭くするように全国に通知した。

ロンドンの新型コロナデータ追跡機関Airfinityは、12月下旬には少なくとも毎日9千名が死亡していると推定していた。さらに、感染者の死亡率、二次感染率、入院率、ICU治療率なども不明である。

「保健当局が感染の状況を適切に把握して対策を行う上で、さらに、国際社会に対する情報提供のためには、これらのデータは必須である」とエール大学公衆保健専門家ガイ・チェン氏は述べた。

中国における激しいパンデミックが厄介な変異株を生み出さないかどうか懸念の的である。「すでに、何らかの懸念変異株が発生しているかもしれない」と2022年まで中国CDCの所長だったが、その後変異株の追跡を行っているジョージ・ガオ氏は語った。

しかし、本誌に「まだ、新たな変異株は見つかっていない」と述べた。12月20日に記者会見を行った国立ウイルス病制御研究所所長シュー・ウェンボ氏は、現在世界で主流株となっているオミクロン派生株BA.5.2とBF.7が中国でも主流株となっていると説明した。欧米と同様、BQ.1 とXBBも中国の若干の地域で流行しているという。

中国がしっかりサーベイランスを行っているかどうかについて専門家の意見は分かれている。

複数の定点観測病院が各省、各都市ごとに配置されている。それぞれの機関で、毎週15名の感染者、10名の重症者、すべてのコロナ死亡者について、遺伝子配列が調査されているという。

チェン氏は、このサンプル数が少なすぎると批判している。地域の人口に合わせて、十分なサンプル数を確保することが必要だとオクスフォード大学の疫学者エリザベータ・セメノワ氏は指摘する。

彼女は、昨年11月に189か国における新変異株サーベイランスに関する論文を発表している。それによれば、サーベイランスを効果的に行うためには、21日以内に、感染者の0.5%の遺伝子配列調査が必要だとしている。中国のサーベイランスはそれに遠く及ばない。

しかし、ガオ氏らは、現在の中国のサーベイランスでもタイムリーに新変異株を発見できるだろうと述べている。

毎週2～3千の遺伝子配列を調査したなら、新たな変異株の出現と流行傾向を掴むことができるだろうと、香港大学ウイルス専門家レオ・プーン氏は語っている。彼は中国当局が世界最大の新型コロナデータベースGISAIDとデータをシェアしていると語った。

中国では、中国CDC以外に、30以上の病院と大学の研究チームが、変異株の追跡を行っていると中国の疫学者が匿名を前提に語っている。これらの研究チームは危険な株が見つかったなら、すぐに報告するだろうと彼は語っている。

しかし、信頼できるデータの発表がないために、中国政府のコロナパンデミック対策に対する信頼がすでに低下している。

アメリカやフランスなどは依然として中国からの入国者に検査を義務付けている。

しかしファン氏は、これで新たな変異株を封じ込めることはできないだろうと考えている。

大事なことは、中国自身が、地元で何が起きているかを正確につかむこと、そして入国基準を厳しくするのではなく、冷静な外交により事態の改善を図ることだと彼は語った。